

これまでのWGで出された主な意見

(事務局にて整理したもの)

【HER-SYSの運用・改善について】

- 現状は、HER-SYSという新しいシステムができたものの、システム上の要改善事項も依然として多いという認識。これまで、自治体の意見を聞いて様々な改善を行ってきたことは理解したが、今後とも、現場の声を良く聞いて改善していくべき。
- HER-SYSの活用のためには、医療機関での入力を進めることが必要。事務負担や入力の負担を勘案し、医療機関に入力するインセンティブが湧く仕組みとすべき。
- 検査数が膨大になると、全部入力するのは現場の負担につながりかねない。入力項目については、感染症法に基づく発生届情報、迅速な登録が必要な項目、疫学調査を経た上で把握できる項目など、項目の種類・性質に応じて改めて整理することも必要ではないか。併せて、必須項目の在り方についても再整理すべきではないか。

【データの精度管理（地衛件・感染件の関与の仕組みを含む）について】

- 疫学情報等も入力できるHER-SYSを効果的に活用するには、データの精度確保が重要。
- データの精度確保のため、地方衛生研究所（地方感染症情報センター）や国立感染症研究所（中央感染症情報センター）の関与により、迅速性と精度確保を上手く両立できるような在り方を考えるべき。
- データ入力に係る保健所や医療機関の負担軽減のため、入力のための人員を国から派遣するといったことも一案として考えられるかもしれない。

【入力データの活用について】

- HER-SYSに正確に入力されたデータが、地域の感染症対策（患者数の抑制等）につながるような流れを作っていくことが重要。
- HER-SYSにおいて地方公共団体が共通的に公表している表やグラフの作成機能があると、複雑な作業をしなくてもよくなるため便利。
- データ入力の精度管理と入力データの活用は車の両輪のような関係。データの精度管理を進めつつ、入力データの活用を図っていくことが望ましい。